



URL <http://www.pippo.co.jp>
E-mail itoh@pippo.co.jp

ピッポ新聞

2008

1

No.227

子どもの本専門店

ピッポ

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤倭男

〒424-0886 静岡市清水区草薙1-6-3

TEL & FAX 054-345-5460

ヤマイモ掘りと

大ススメバチ

ちょっととした疑問に対する答えをすぐに得たいとき、みなさんはどうしますか？百科事典で調べますか？その分野の専門書ですか？それともインターネットでしょうか？

ぼくもそんな場合は、その辺りを当たります。(手軽ですから、今はまずインターネットで調べます。本屋として間違ってるかな？)

しかし、求めている知識が的確に得られなくて、隔靴搔痒と感ずることありませんか。

なぜ冒頭からこんな質問をしたかというところ、去年の秋、このことを強く感じたからです。求めている答えの周辺をウロウロしているだけで、欲しい答えが得られないのです。

11月の下旬、近くの山へヤマイモ掘りに出かけました。これは毎年のことですがね。ヤマイモ掘りのシーズンになると、週1回か2回は出かけるのです。多くは仕事の途中1時間から2時間かけて2〜3本のヤマイモを掘ってくるのです。これをとろろ汁にして食べるのですが、我が家では家族全員が好物です。

ぼくは食べるのも好きですが、ヤマイモを掘るのはもっと好きなのです。太くて長いヤマイモを折らずに掘れたときの喜びたるや、掘ったことのあるひとでなければとうてい理解できないことでしょう。

たまにカミさんも、ツルウメモドキなど秋の木の実や花を探るときついてきますが、ほとんどの場合、ぼくが一人で掘りに出かけます。ですから、ジョギングのときに、ヤマイモの葉っぱやツルを遠くから眺めて、見当をつけておいたり、場合によっては近くにいてツルの太さなどを確かめておきます。

毎年、葉っぱが黄色く色づく10月の下旬ぐらいから掘り出かれます。たいがいは、ヤマイモはツルが太ければヤマイモも太くて大きいのです。

でもね、せっかく目星をつけていたのに、いざ掘ろうとして行ってみると、そこにはでっかい穴があいていて、既に他の人が掘った後だったということもしばしばです。

ですから、少しセコイのですが、太いつるを見つけたときなどは、自分にだけ解るように目印を付けておき、木や藪に這っているツルや葉っぱをたぐり寄せて、遠くへ移動させておきます。

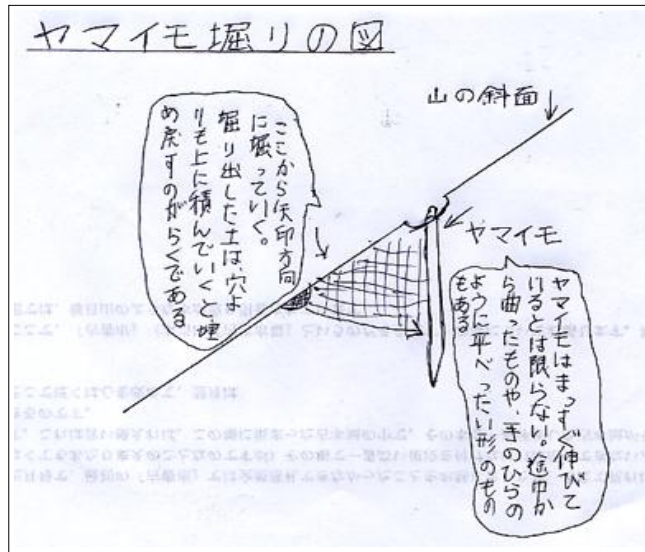
ヤマイモ掘りの道具はシャベルと鋸とドライバールと軍手です。シャベルといっても幅が狭く細長い形をした少し特殊なシャベルです。これは土木工具などを売っている店で見つけて購入したもので、イモ掘りにはとても重宝しています。

鋸はイモを掘っていると必ず障害物として植物の根が出てきますから、これを鋸で切つて除くために必要なのです。ドライバールは最終段階でイモを折らないため、芋の回りの土を丁寧に除くのです。ぼくはこれを芋掘りの3道具と勝手に名付けています。

シーズンになるとこれを車の中に積んでおき、時間に余裕ができると山に出かけるのです。

(時間に余裕がなくても、仕事をさぼって
ときどき出かけますがね、これ内緒)
11月の10日前後だったと思いますが、ヤ
マイモを掘りにいって、ぼくはとんでもな
いことに遭遇したのです。その原因を作っ
たのはぼく自身なんですがね。

その数日前に、この有度山では珍しい、
1メートルちかくのりっぱなヤマイモをぼ



くは掘ったのです。しかも、途中を折らず
に完璧にね。掘るのには1時間近く費やし
たのですが、幸い、そこは少し急な斜面で
したから思いの外、楽に掘れました。

ぼくのヤマイモ掘りの方法は、まずツル
をたどって、地面の中のヤマイモの頭を確
認します。それから、自分が立って作業が
できるように、周囲のボサを取り除きます。
場所によってはノイバラなどがあって手

こずることもありませんが、そんなときは鎌
や鋸を使います。ココまでが掘るための下
準備です。

それから、出しておいたイモの頭を確認
して、そのイモの大きさを想像して、少し
離れたところから掘りはじめます。こ
れが結構重要なことなのです。

というのは、イモの頭の近くから掘はじ
めると、いくら掘らないうちに、すぐに
土の処理ができなくなり、作業効率がとて
も悪いのです。それよりもイモの大きさを
予測し、ある程度離れたところから掘りは
じめれば、後の作業もスムーズにいくので
す。いわば、ちよつとした土木工事の要領
なのです。

それに、ヤマイモ掘りのモラルとして、
掘った後の穴は埋めておかなければなりま
せん。掘ったままの穴が山のおちらこちら
にあります。山に遊びに来た人が気付か
ないで落っこちて怪我をする原因にもなり
ます。また、山が少しづつ崩壊するもに
もなるでしょう。

ですから、ぼくは掘る前に掘った土を何
処に置けば、埋め戻すのに楽かを考えなが
ら掘っていきます。

で、ぼくはその1メートルちかい立派な
ヤマイモに味を占めて、数日後にまたその
近くを探しにでかけました。

あれほどの大物は見つかりませんでした
が、2本ほど掘ったあと、さらに、有望な
ヤマイモのツルを近くにみつけたので、近
づいていったのです。

すると、山道の左側面に変わった地層

(幾何学的な模様のきれいな地層)があつ
たので、持ち前の好奇心で、持っているシャ
ベルでその部分を突き刺してみたのです。
すると、それは枯れ葉で作った壁のように
シャベルの先が苦もなく「ズボツ」と入っ
て、その部分に大穴があいてしまったので
す。

なんと、それは 大スズメバチの巣だった

そこには大スズメバチがうようよと、う
ごめいていました。



壊してしまった大スズメバチの巣。上の段だけ少し残っ
ていて、ココに残党が暫く生息していた

ぼくはこれを見た瞬間、後も振り返らず
走って逃げました。必死に100メートル
は山道を通り走り抜きました。大スズメバチは、

ぼくを追ってくることはありませんでした。大スズメバチの巣を破壊してしまつたのに、なぜ襲われることがなかつたのでつしようか？

車に戻つて、少し冷静に考えました。多分、その日は急に冷え込んで気温が低かつたことが幸いしたのではないのでしょうか？あくまでも想像ですが、気温が低いと大スズメバチは飛ぶことができないのではないのでしょうか？

1週間後、大スズメバチの巣はどうなつたか様子を見にでかけました。すると、1メートルぐらい巣へ近づくと1匹の大スズメバチが飛びだしてきたのです。ぼくは逃げ帰りました。また1週間後、出かけてみました。やはり1メートルまで近づくと1匹飛び出してきました。

巣がどうなっているのか恐くて、伺ことができないのです。そんな繰り返しですが1ヶ月近く続きました。近づくると必ず1匹が飛び出してくるのです。

12月中旬をすぎて、ジョギングの途中様子を寄つてみたところ、1メートルに近づいてもハチは飛び出してきません。そこで巣の真横まで近づいて観察しました。巣は上1段を残して、完全に壊れていました。ぼくがシャベルで突き刺したときより壊れ方がひどい状態です。それと、不思議なことに、ハチの死骸はおろか、幼虫など全然見あたりません。それでも少し恐いので、巣の残骸や巣を手で触ることができませんでした。

なぜここまでぼくが慎重(ただ怖かつた

だけ)だったかと言えば、4・5年前にこの山の反対斜面(清水側)で、やはりヤマイモ堀の人がスズメバチに刺されて死んでしまつたことがあつたのです。



残っていた巣を持ち帰って調べたが、蜂の子一つ入っていませんでした。つい先日まで出入りしていた大スズメバチはどうなったのだろう？

1月2日カミさんと大スズメバチの巣のその後を見に出かけました。

巣の様子をデジカメで撮つたあと、残つている上1段の巣を持ち帰つてきて調べましたが、中は空っぽで何もありません。それどころか触るとすぐ壊れてしまいます。ぼくは大スズメバチの死骸や蜂の子が手にはいると期待していたものですから、とても残念でした。

ハチは巣からいついなくなるのでしょうか？

ここで冒頭の問いかけに戻るのです。

ぼくはこんなことがあつたので、俄然大スズメバチに興味を持つて、現在進行形で次々に知りたいことが出てきました。たしかに、大スズメバチは女王バチのみが越冬し、ほかの働きバチは冬を越せないと言われているのです。

ぼくは時々巣を観察に行つたが、12月上旬になつても、近づくると巣からハチは飛び出してきます、じゃーいつたい、いつ巣は空っぽになるのか？ぼくは知りたいのですが、何処にも書いてないのです。

インターネットで調べてみたが、ある程度の生態の概要を知ることができるのですが、スズメバチの巣を目の前にしてぼくの知りたいことが得られません。

その死骸はどうなるかは皆自分からなのです。ぼくが知りたいのは、それらがいっなくなるとかを知りたいのです。12月上旬になつても巣に近づくとハチは飛び出してくるのです。

ぼくは大スズメバチの死骸を欲しいのです。と言つのも、ぼくは死んだ大スズメバチを何匹か集めて、知り合いに「どうだ！」と威張つて配りたいのです。

でも、いつ死ぬのか何処で死ぬのか、また、死んだハチはどうなるかがわからないのです。ハチがいなくなつて巣を観察しましたが、巣の回りでスズメバチの死骸を一匹たりとも見つけることができませんでした。

ね、ぼくが「隔靴搔痒」だと感じたことが理解いただけましたでしょう！ぼくなり色々想像してみました。ぼくが発見した



ねー、この本読んだ？

大スズメバチの巣は、たぶん誰かがヤマイモを掘ってそのままにしていた穴に、巣を作ったのだと思います。その後、スズメバチたちは弱っていく過程で鳥などに餌として食べられてしまったのではないのでしょうか？

でもね、ぼくが知りたかった女王バチ以外の何百匹という働き蜂のその後は、残念ながら、インターネットや本では知ることができませんでした。

もし詳しい方がいましたら教えていただければ幸いです。

『ベスとアンガス』(マージョリー・フラック・作 まさきるりこ・訳 1365円 アリス館)

作者マージョリー・フラックは、1920年代後半からに始まった「アメリカの絵本の黄金時代」の一翼を担った絵本作家です。その作品は絵本の古典として今も読み継がれています。

「アンガス」のシリーズはの作あり、最初に1974年に「アンガスとあひる」が翻訳され、「アンガスとねこ」

「まいごのアンガス」と3作を瀬田貞二さんの訳で福音館から出版されています。本書は1933年の出版で多分シリーズの4作目です。1作目では主人公アンガスはとても活発で、なによりも好奇心のかたまりのスコッチテリアの小犬として登場してたのですが、本書ではそのアンガスも登場しますが、主人公はエアデル・テリアのベスという名の小犬なのです。このベスはアンガスとは正反対で、何事も引つ込み思案で、臆病なのです。そんなベスがあることでアンガスたちに出会って……。

フラッグの『おかさんだいすき』(光吉夏弥・訳 岩波書店)もおすすめです。

『機関車シュッポと青いしんがり貨車』(リディア&ドン・フリーマン・作 やましたはるお・訳 1575円 BL出版)



この絵本も少し前の1951年にアメリカで出版されたものですが、山下明生さんによって初めて翻訳されたものです。

されたものです。

この絵本が描かれた時代の1940年代は、アメリカではこれまでの古い蒸気で動く機械などにとって代わって電力の機械が登場した時代でした。この社会的な背景のもと、

られたしんがり機関車などを慈しみの心で描かれた絵本です。この時代は人間も機械に対して愛情もつと接したことが伝わってきて暖かな気持ちにさせられます。登場してくる機関車や貨車は表情豊かに描かれていて、ユーモラスです。バージニア・リー・バートンの「はたらきもののじよせつしやけーていー」(石井桃子・訳 福音館書店)、「ちいさいおうち」(石井桃子・訳 岩波書店)などもこの時代に描かれた絵本です。

『タンタンとピカロたち』(エルジェ・作 川口恵子・訳 1680円 福音館書店)



これは『タンタンの冒険』シリーズの23巻目です。舞台は南米の独裁者の支配するサン・テオドロス(架空の国)で拘留された歌手ピアンカ・カスタフィオーレを。

タンタンや「バーロー岬」の船長とピカー教授が助けにくいのです。だが独裁者がタンタンたちに

ヲ畏を仕掛けてくすねひいているのです……。

同時に24巻の『タンタンとアルファアート』(これが最終巻)も出版された。こちらは未完で、ラフ原稿のままの出版ですが、作者の意図が伝わってきます。全24巻在庫揃えてあります。